

ビジョン見直しの背景・目的

富田林市水道事業ビジョン（計画期間：平成29～平成38（令和8年度）） 【10年間】

理想像・目標

未来へおくる水道

- ◆ 「安全・安心な水道」～水道から蛇口まで～
- ◆ 「強靱な水道」～災害にへこたれない～
- ◆ 「持続可能な水道」～いつまでもすぐそばに～

フォローアップ

- ◆ PDCAサイクルにしたがった水道事業ビジョンの推進と検証・見直し ※毎年達成状況を確認
- ◆ 必要に応じて中間年度（概ね5年後）に水道事業ビジョンを見直し

富田林市水道事業を取り巻く環境の変化

- 人口・給水量の予測値と実績値との乖離 → 水需要予測の見直し
- 新型コロナウイルス感染症の水道事業への影響 → 水道料金減免、大口需要者の使用量減
- 甲田浄水場の廃止、大阪広域水道企業団河南ルートの整備
- 料金改定の決定 → 令和3年10月1日（約15%増額）、令和7年10月1日（約10%増額）
- 大阪広域水道企業団や隣接市町との共同化の進展
- 施設整備計画の見直し → 管路更新工事布設単価の見直し等
- 水道法の改正（令和元年10月1日施行）
 - 関係者の責務の明確化
 - 広域連携の推進
 - 適切な資産管理の推進
 - 官民連携の推進
 - 指定給水装置工事事業者制度の改善

○：現行ビジョンにおいて想定
●：現行ビジョン策定後の変化・具体化



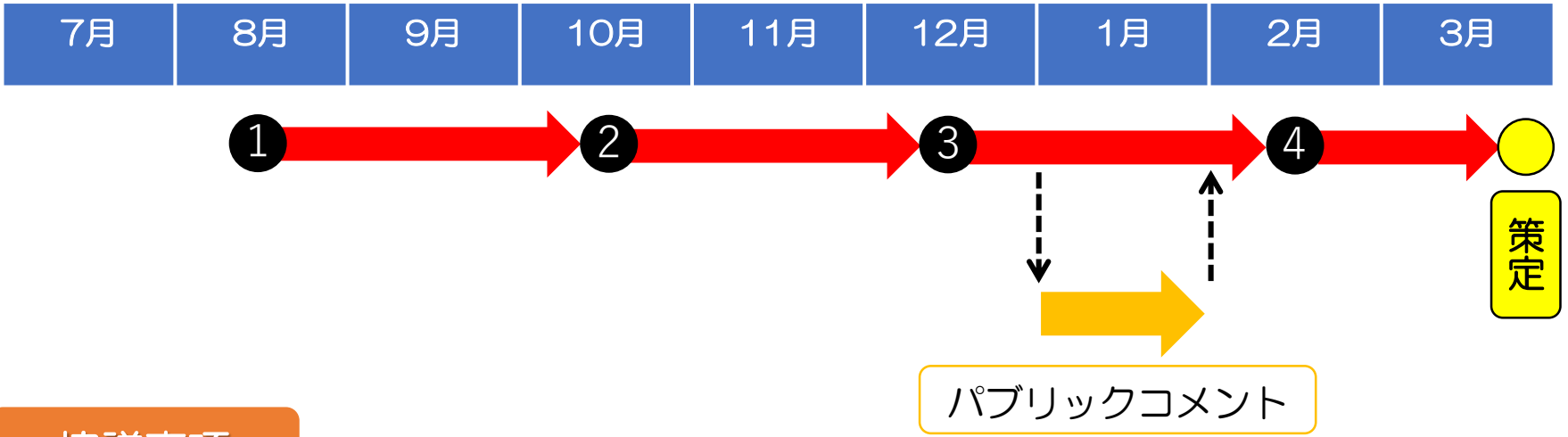
富田林市水道事業ビジョン令和3年度一部改訂（計画期間：令和4～8年度） 【5年間】



富田林市水道事業ビジョン改訂（令和8年度予定）

富田林市水道事業ビジョン検討委員会の進め方について

スケジュール

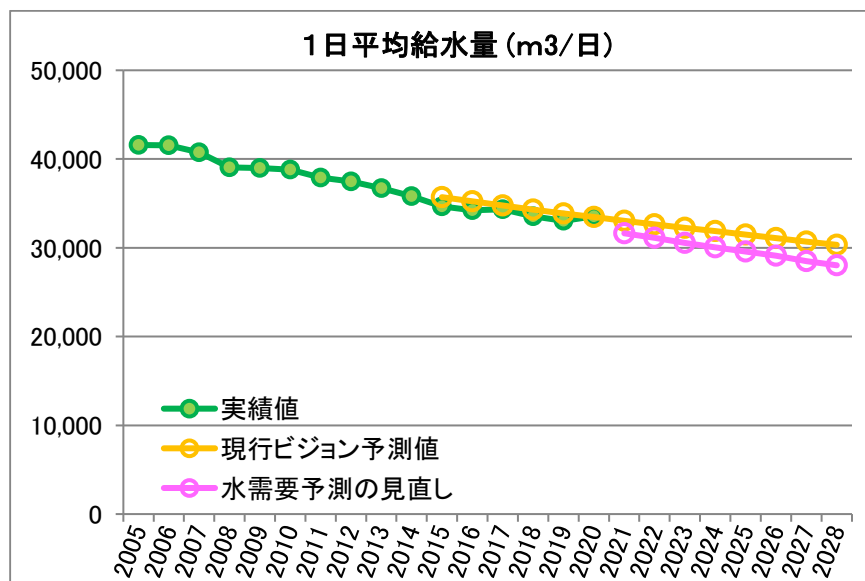
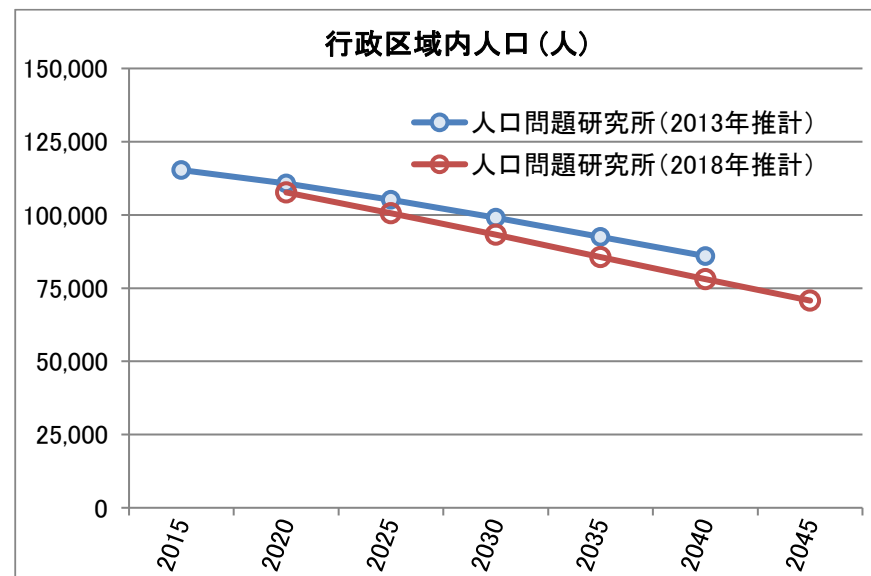
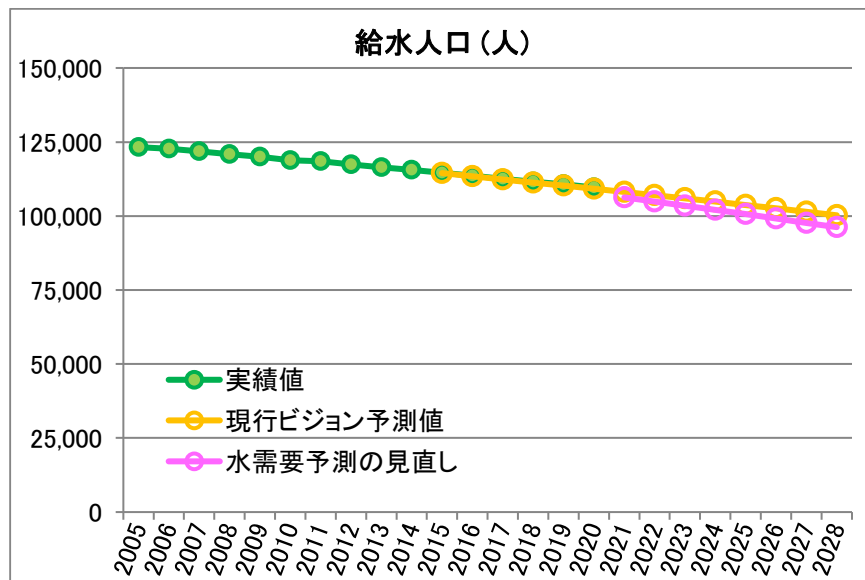


協議事項

①	8月17日（火）	委員会の運営・スケジュールなどの事務手続き、ビジョン見直しの背景・目的 現行ビジョンの達成状況、富田林市水道の概要、水需要予測の見直し
②	10月中旬予定	事業の分析・評価・課題抽出 基本施策・具体的取組の見直し、意見交換
③	12月中旬予定	「富田林市水道事業ビジョン一部改訂（案）」の作成
④	翌2月中旬予定	パブリックコメント意見のとりまとめ、「富田林市水道事業ビジョン一部改訂」のとりまとめ、意見交換

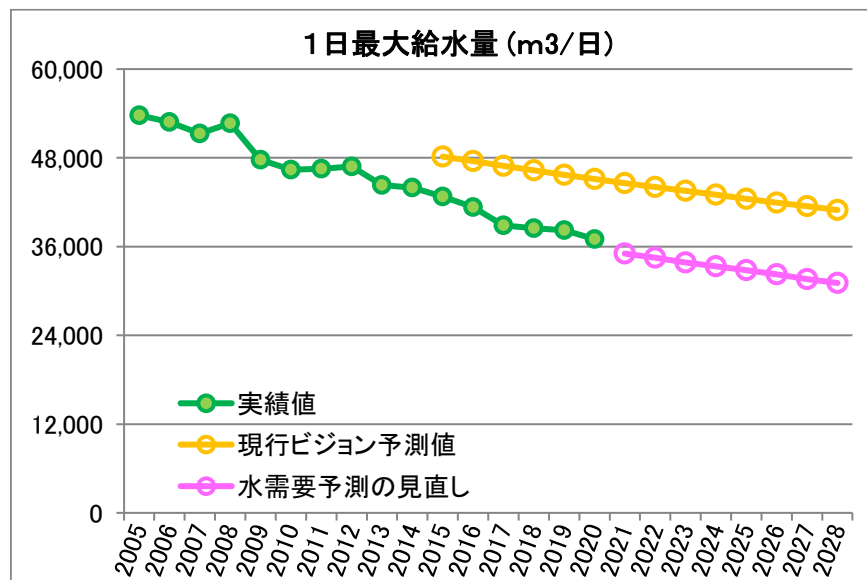
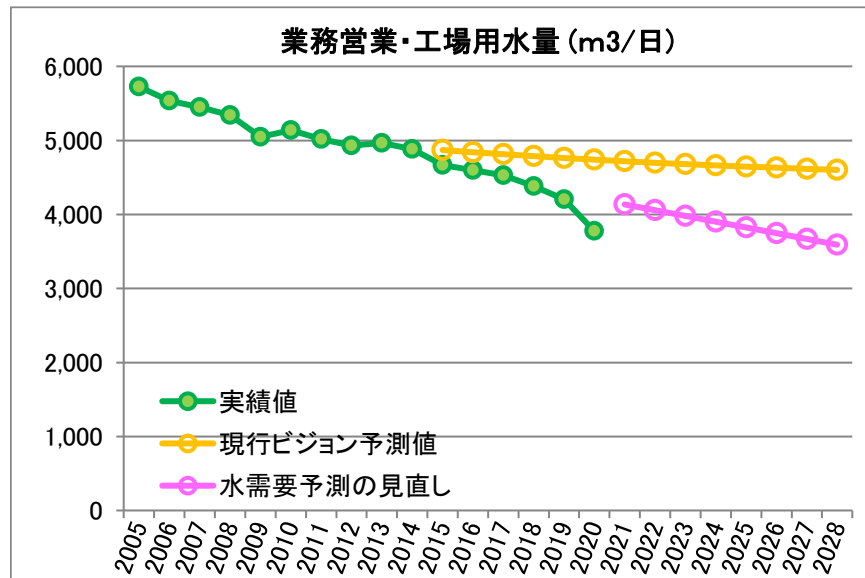
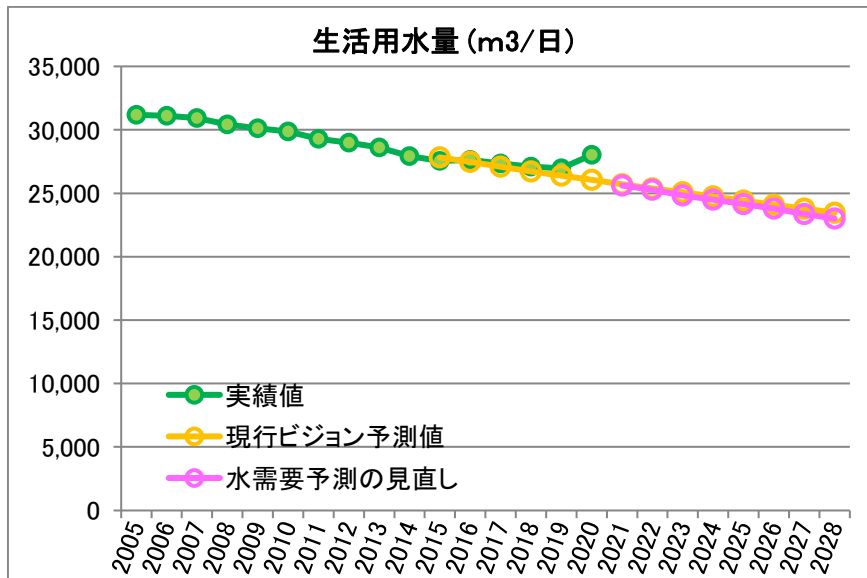
水需要予測の見直しについて

給水人口・給水量の乖離状況の確認



- ◆ 給水人口は、予測値と実績値がほぼ整合している。
- ◆ ただし、最新(2018年推計)の人口問題研究所の推計値では人口推計値が下方修正されている。
- ◆ 1日平均給水量は、令和2(2020)年度を除いて実績値が予測値を若干下回っている。

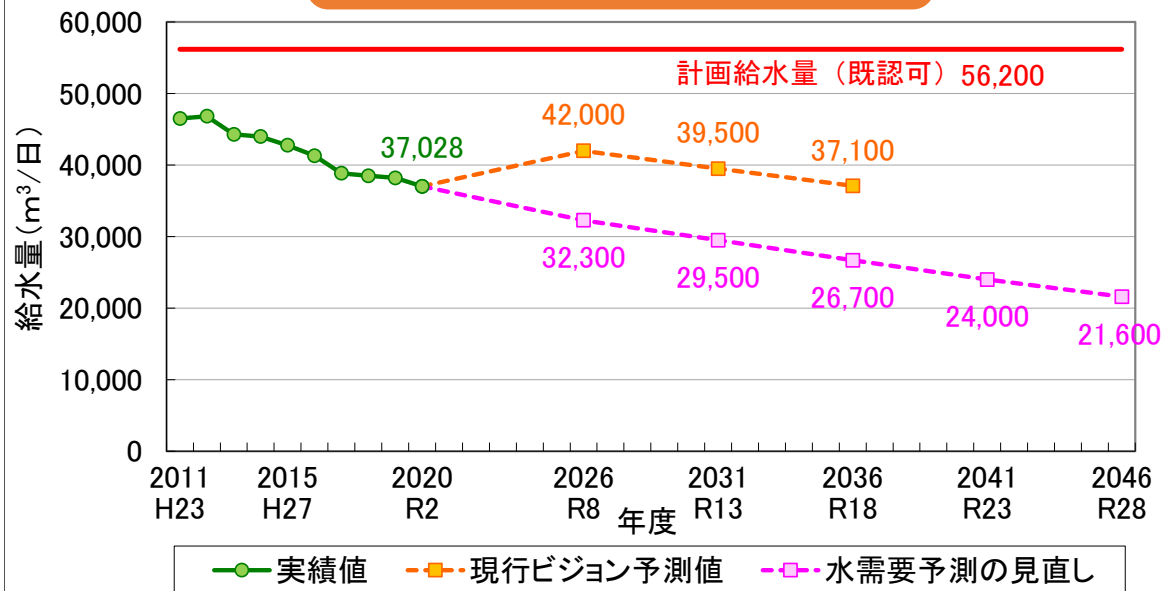
給水人口・給水量の乖離状況の確認



- ◆ 生活用水量は、平成27（2015）年度に実績値が予測値をわずかに下回ったものの、その後は実績値が上回っている。
- ◆ 令和2（2020）年度は実績値が大幅に上回っており、新型コロナウイルス感染対策のための在宅時間の増加や手洗い・うがいの励行などが要因として考えられる。
- ◆ 業務営業・工場用水量は、実績値が予測値を下回っており、その差は年々広がっている。
- ◆ 1日最大給水量は、実績値が予測値を下回っており、その差は年々広がっている（1日最大と1日平均の差が縮まっている）。

水需要予測の見直し

一日最大給水量の将来見直し



予測方法

- ◆ 大阪広域水道企業団との統合検討（財政シミュレーション）に使用している人口・水量（有収水量）予測値を採用（給水収益を厳しめに設定するため低位予測値を採用）
- ◆ 一日平均給水量と一日最大給水量は近年の実績値（PL花火の中止など）を加味して市独自で推計

現行ビジョン予測値との差異（要因）

- ◆ 人口予測推計値の下方修正
- ◆ 業務営業・工場用水量の想定を超える実績値の減少
- ◆ 一日最大給水量と一日平均給水量の差の縮小（PL花火の中止）

課題

- ◆ 給水収益見込みの減少
- ◆ 施設能力の余剰拡大
- さらなる経営効率化、施設統廃合・ダウンサイジングの推進

一日平均給水量の将来見直し

